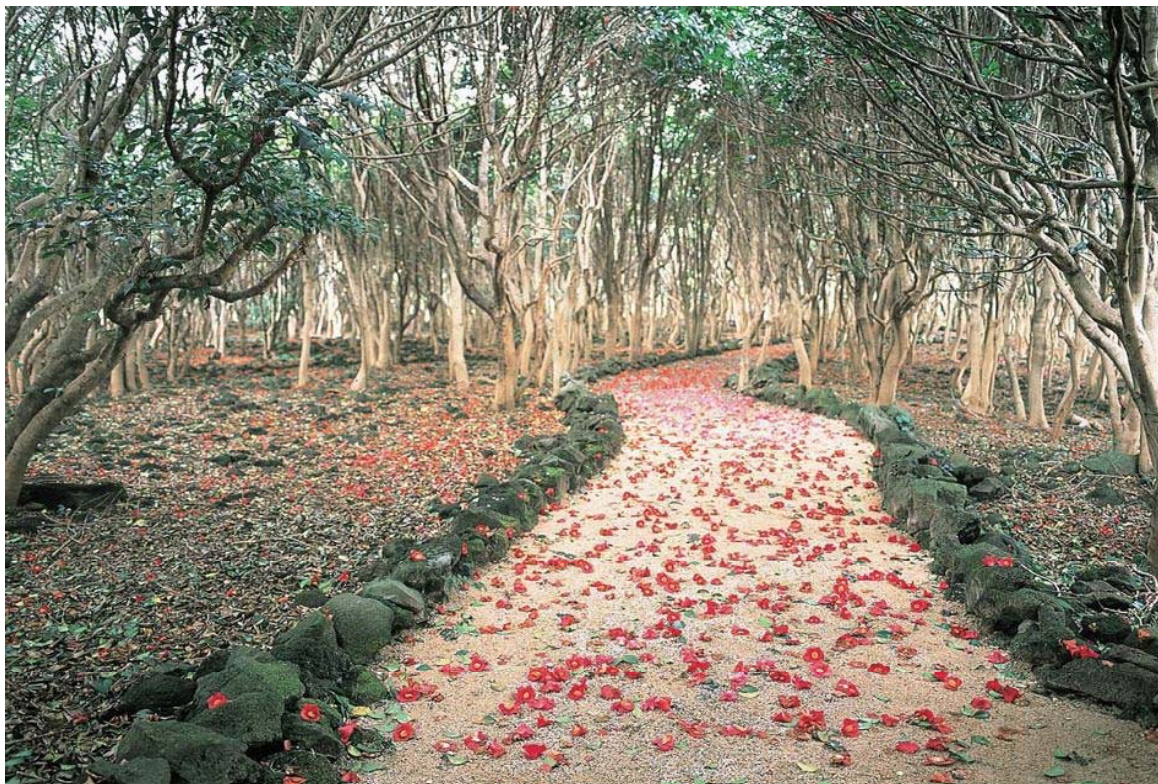


# 山口県地域医療の風だより No.13

平成26年3月号



## 萩市笠山の「椿群生林」

萩市笠山にある椿群生林では、約10haの敷地に約25,000本のヤブツバキが可憐な花を咲かせ、例年2月下旬～3月下旬頃に見頃を迎えます。色鮮やかに咲き乱れるヤブツバキの見頃にあわせて、「萩・椿まつり」が開催され、多くの観光客で賑わっています。

## 目次

	ページ
I 地域医療の現場より	
～ 萩市国民健康保険川上診療所 佐久間暢夫所長に聞く ～	1
II 山口の今	
◇ へき地医療支援センターが開設されました！	5
◇ 「長州総合医・家庭医養成プログラム」エントリー第1号の 中安一夫医師にインタビュー	7
◇ 地域医療セミナー2013夏 in 周防大島	10
◇ 県内3ヶ所で「高校生のための医療現場体験セミナー」開催！	11
III 県からのお知らせ	
◇ 「やまぐちドクターネット」を御覧ください！	12
◇ 「山口県地域医療の風だより」の継続申込書	12

## I 地域医療の現場より

### 萩市国民健康保険川上診療所長 佐久間暢夫さん

第13回の「地域医療の現場より」は、平成4年6月から22年間、萩市国民健康保険川上診療所で勤務されている佐久間所長にお話しをうかがいました。

佐久間暢夫（さくまのぶお）医師  
プロフィール  
昭和55年3月 山口高校卒業  
昭和61年3月 自治医科大学卒業  
                  県総～美和病院～県総  
平成 4年6月 川上診療所～  
          萩市国民健康保険川上診療所長  
          萩市保健福祉部理事  
          萩市休日急患診療センター長  
※趣味：ゴルフ、エアロビクス、水墨画



## interview

**【Q】** 佐久間先生が医師になろうと思った動機を教えてください。

**【佐久間先生（以下「佐久間」）】** 父方の祖母が歯科医で、祖母の兄弟が医師でした。うちは医者の子の家系のようなので、父親も医者になりたかったようですが、戦争の関係で学校に行けなくてなれなかったそうで、私が小さい頃、ちよくちよく「医者になれ、医者になれ」と言っていたことを覚えています。そのことが影響しているのかもしれないですね。

**【Q】** 次に、地域医療に興味をもたれたきっかけは。

**【佐久間】** 最初は地域医療がしたいと思っていたわけではなくて、漠然と医者になりたいと思っていました。自治医科大学を受験したのも、たまたま父親から受けてみないかと言われて受けたんですよ。

自治医大での授業や寮での生活を通じて、へき地で勤務するということが当たり前になっていましたね。全寮制なので6年間みんなで過ごす間に、将来はへき地で勤務するんだよとずっとすり込まれていたのかなと思います。



**【Q】** 川上診療所に来られて、今年で22年目を迎えていらっしゃるわけですが、地域医療を長く継続されている理由はなんですか。

**【佐久間】** 私が川上診療所に赴任した旧川上村時代は、小さい村の唯一の診療所でした。村長さん、議員さん、担当課の方など、たくさんの方々に非常に気を遣っていただいて、とても居心地がよかったということがあります。村長さんとは直接お話をすることができましたし、自分がやりたい医療をバックアップしていただきました。スタッフにも恵まれましたし、職場の環境が素晴らしかったのも大きな理由ですね。



川上診療所

それから、週1日の研修を許していただいたことも大変ありがたいことでした。県立総合医療センターの病理検査室、山口大学の病理学第一講座にお世話になり、日常から離れて畑違いのことをやることによってリフレッシュできたと思います。

もう一つ、自分の子どもたちが川上を離れたくないと言ったことも大きいですね。地域の皆さんに育てていただきました。

**【Q】** 先生ご自身の「モットー」や診療する上で目指していることは何でしょうか。

**【佐久間】** 「明日できることは今日しない」ということを意識して過ごしていましたが、兼任の仕事が増えてくるとなかなかそうはいきませんね。

自治医大のある先生の「困難は乗り越えられる人の上にやってくる」という言葉を聞いて「なるほどな」と思いました。もともと楽観的な性格ですが、どんなに忙しいときでも「なんとかなるさ」と思うようにしています。

診療上は何ですかね…。特に意識していないですね。意識しないでやっているの…。う～ん。そうですね。話しやすい雰囲気作りですかね。

例えば、患者さんが「他の診療所に行ってきました」とか、「実は薬を飲んでいません」とか、正直に話してもらえるような雰囲気を作りたいと思っています。



診療風景

**【Q】** 先生が診療していて「楽しい」と感じたり「やりがい」を感じたりするのはどんなときでしょうか。また、「つらい」と感じる場面などは。

**【佐久間】** 患者さんから、「病気を早く見つけてもらったので治ったよ」と言われると、良かったなと思いますね。

もう一つ、ご高齢の方が在宅でご家族に見守られながら幸せな最期を迎えられたと

きには、良かったなと思いますね。

つらいと感じるときは、患者さんに自分の気持ちが伝わらなかったときですね。

【Q】先生の診療の「支え」になるものは何でしょうか。

【佐久間】家族ですね。家族が元気でいてくれることが何よりも支えになっています。

もちろん、自治医大の仲間であったり、医師会の先生方であったり、スタッフや患者さんも支えになっていますね。関わりのある皆さんに支えてもらっているし、また、みんなでうまく支え合っていると思いますね。

そういった意味では、人間関係ですね。

【Q】今後の抱負は何ですか。

【佐久間】自分の健康をこのまま維持できたらと思っています。ここに勤務して22年間、自分の体調不良で休診したことがないんですよ。これは大事なことだと思いますね。

【Q】プライベートではどんな時間を大切にしていらっしゃいますか。

【佐久間】やはり家族との時間を大切にしたいですね。

もちろん自分自身の時間もですけど。趣味のゴルフやエアロビクスもできるだけ時間を取れるようにしています。マンガ雑誌も毎週3冊読んでいますね。あっ、勉強の時間は当然大切にしていますよ。



巡回バス



阿武川温泉

【Q】萩市では昨年10月に萩市休日急患診療センターが設置されましたね。

【佐久間】萩市では、医師会のご協力で24時間の救急医療体制が確立していますが、一次救急を担当されている開業医の先生方の平均年齢が60歳を超えました。ご負担を軽減し、救急医療体制を維持するため、地域医療再生基金により当センターが設置されました。日曜・休日、および年末年始の午前8時から翌朝午前8時まで診療しています。日中は歯科も診療しています。

本当は常勤医が欲しいところですが、なかなかそうはいきません。山口大学医学部をはじめ、山口県立総合医療センター、萩市医師会や他市医師会の有志の先生方のご支援で運営できています。薬剤師会、非常勤の看護師・歯科衛生士、医療事務の皆さま

んの多大なご協力もいただいています。患者さんの多い日は100人を超えますよ。市民の皆さんからも期待されているのだと思います。しかし、不慣れなせいもあり、長い時間お待たせすることも多いのが現状です。大変申し訳ないと思っています。

**【Q】** 7月の豪雨災害の影響はありましたか。

**【佐久間】** 川上地域には直接的な影響はありませんでした。

田万川地域の山間部にある特別養護老人ホームが浸水して孤立しました。私は、ヘリコプターで萩市内に搬送された50人の方を、介護施設や病院など必要な機関へ振り分ける仕事を担当しましたが、各施設からお迎えに来られたスタッフの皆さんは顔見知りばかりでしたので非常にスムーズに行うことができました。

須佐地域では、被災された民間医療機関が廃業されました。現在、弥富診療センターの先生が須佐診療センターの業務も掛け持ちしているので、とても大変だと思います。須佐診療センターには県から医師を派遣していただけることになりましたので、診療体制を整え、地域の方々が安心して暮らしていただけるようにしなければならぬと思っています。

**【Q】** これから医療の仕事をしたいと思っている人や医学生などへメッセージをお願いします。

**【佐久間】** 医学生の皆さんには、学生時代に医学以外のいろいろなことを経験してほしいと思います。患者さんはいろいろな経験をなさっていますからね。また、地域医療の現場では、大病院に比べて「物」や「人」が十分には揃っていません。地域医療には、ないものをどうやって工夫していくかというところがあります。それは、もしかしたら頭の使い所、腕の見せ所なのかもしれませんね。ものがなくても何とか工夫して頑張っていく。「ない」と文句を言うのではなく、何とか工夫することを考えてみてほしいと思います。

それから、自分の手に負えないところはもちろん専門医に紹介しますが、紹介先の皆さんとも顔が分かる関係になることが大切ですね。ざくばらんな関係を作り、ディスカッションできるようになること、つまり、人間関係も大切にしてくださいね。

**【Q】** 佐久間先生、どうもありがとうございました。  
今後ますますのご活躍をお祈りいたします。

**【佐久間】** こちらこそ、ありがとうございました。



萩市休日急患診療センター



三徳橋



## Ⅱ 山口の今

### ◆ 「へき地医療支援センター」始動！～医療の谷間に灯をともし～ ◆



原田 昌範（はらだ まさのり）

山口県立総合医療センター へき地医療支援部 診療部長

山口県健康福祉部地域医療推進室 主幹

山口県（人口約145万人）の高齢化率は約30%であり、全国より約10年進んでいると言われていています。20年後には、人口が今より約30万人程度減少し、さらに高齢化が進むと予測されています。県内のへき地の高齢化は深刻です。法律で定められる山口県の「へき地」は、県土の60%を占め、約215,000人（15%）が暮らしています。21の有人離島や中山間地域の多くは、高齢化率が50%を越え、その高齢者の生活を支える世代も減り、未だに十分な医療や保健、福祉が届いているとは言い難い状況です。

山口県立総合医療センターへき地医療支援部のミッションは、「山口県のへき地に医療と安心を届け、地域社会を守る」ことであり、以下の3つの軸を基本として取り組んでおります。また、平成25年4月より、へき地医療支援を推進するため、へき地医療経験者を募り、院内組織として「へき地医療支援センター」を設置しました。5名体制となったことで、萩市や長門市の休日夜間急患センターの支援にも組織として対応することが可能となりました。

また、へき地医療経験者を募る際に、院内の診療科に所属して専門分野のスキルを磨きながら週に何日かへき地の支援も行うというスキームにしたことで、自治医科大学卒業医師の県内定着策の一つとしても大いに期待されています。



永井学長（自治医大）と前川院長（県総）

### ミッション①：医療支援

常勤医の確保が困難な離島や山間部に巡回し診療を行う「巡回診療」やへき地診療所に勤務する医師の研修や病休などの時に代わって診療する「代診」を行っております。平成 25 年度に設置された萩市・長門市の休日夜間急患センターの診療支援も開始しました。ここでは、赤ちゃんから高齢者、内科系から外科系までひとりで 1 次救急患者に対応することを求められ、へき地医療経験が役立ちます。また、へき地勤務医師の診療等の相談にも電話やメール等で応じております。

### ミッション②：仕組みづくり

山口県地域医療推進室主幹の立場として、へき地を抱える各市町の地域医療の担当者、へき地医療機関のスタッフそして住民の声を聞き、へき地医療をチームで支える仕組みを目指しております。県内のへき地医療対策は、「第 11 次へき地保健医療計画」に基づき実行され、進捗状況等を話合う「へき地医療専門調査会」では座長を務め、へき地医療の推進を図っております。

### ミッション③：次世代の育成

へき地で実施する医学生対象の「地域医療セミナー」等を山口大学地域医療推進学講座と連携し、企画・運営しております。当院における初期臨床研修医対象の「地域医療研修（必修）」の指導・調整も担当しております。また、平成 24 年度より当院とへき地医療機関が協同で県内初となる「長州総合医・家庭医養成プログラム（プライマリ・ケア連合学会認定）」を設置し、現在 2 名の医師がこのプログラムにエントリーし、「総合医・家庭医」を目指しております。このように卒前から卒後までを通じて、へき地をフィールドとして次世代を育成する仕組みを構築しております。

極端なことを言えば、日本そのものが離島であり、山口県の離島は日本の将来の姿かもしれません。へき地を守ること、それは将来の日本の地域医療を守ることにつながると確信しております。医療資源の足りないへき地を、地域住民と行政、医療従事者が連携して、既存の枠に固執せず、変化していく地域のニーズに真摯に応えながら支えて行く仕組みが今求められております。次世代を育て、保健、医療、福祉を確保し、「ふるさと」の暮らしを守る「へき地医療支援センター」の取り組みに今後とも期待して下さい。



山口県立総合医療センター

◆「長州総合医・家庭医養成プログラム」にエントリー（第1号）された周防大島町立東和病院勤務の中安一夫医師に状況をお聞きします。◆

○「長州総合医・家庭医養成プログラム」の概要

平成24年度から山口県立総合医療センター（以下「県総C」）において「長州総合医・家庭医養成プログラム」がスタートしました。

このプログラムは、へき地医療拠点病院である県総Cと総合医・家庭医を学ぶのにふさわしい県内のへき地医療機関が連携し、3年間かけて「総合医・家庭医」を養成するものです。

終了後には、「家庭医療専門医（日本プライマリ・ケア連合学会）」及び「認定内科医定（日本内科学会）」の取得が可能となります。

プログラム：<http://www.ymghp.jp/p2-medical-section/p2-15hekiti/tyosyu.pdf>

○中安一夫（なかやすかずお）医師

プロフィール

平成 14年3月 宇部高校卒業  
20年3月 自治医科大学卒業  
20年4月 県立総合医療センター  
22年4月 萩市大島診療所  
24年4月 県立総合医療センター  
25年4月 現職

※ 趣味 ドラム、音楽鑑賞



**【Q】** 中安先生、まず医師になろうと思った動機を教えてください。

**【中安先生（以下「中安」）** 小学生の頃、社会の授業で公害で苦しんでいる人がいることを知ったとき、そういう人たちを何とか支えてあげられるような職業に就きたいと思いました。また、父親からどこに行っても働けるように手に職を持てと言われ続けていて、公務員とか警察とか医者とかを考えていて、その中でもやりがいのある仕事ということで医者を目指すようになりました。

**【Q】** 長州総合医・家庭医養成プログラムに応募した理由は何ですか。

**【中安】** 初期臨床研修が終わって、萩の大島診療所に勤務していたときに、地域に溶け込んで病気だけでなく患者さんを支えていくためにはどういったサービスが必要なのかとかそういった勉強が研修医の時にできていなかったことに気がきました。

また、ちょうど5年目の後期研修の時に何科にしようかと迷っていたので、自分のやりたいことに応じてプログラムを組める研修があってもいいのではと先輩医師に相談しました。そこから急速に動き出してこのプログラムを作っていただいたことが応募のきっかけです。



**【Q】** 先生が提案されてできたプログラムなんですね。

**【中安】** そういったら言い過ぎですが、タイミングもあったと思います。先輩に話をしたことがきっかけにもなり、周りの先生方も指導医の資格をとってくださりと、いろいろと動いていただいて、プログラムを作っていただいたことに感謝しています。

**【Q】** 先生の研修のサイクルはどのようになっていますか。

**【中安】** 1年目は県立総合医療センターで内科（循環器内科を中心）に6か月、小児科を3か月、あとは選択です。米国のオレゴンと北海道にも短期研修に行きました。

今年からは東和病院勤務です。

**【Q】** 昨年は、米国の家庭医療で有名なオレゴン健康科大学（OHSU）へ短期研修に行かれたということですが、海外研修で強く感じたことや得られたものなどありますか。



オレゴンでの研修

**【中安】** まず、家庭医（総合診療専門医）の存在が、行政、医療従事者、住民に広く周知されていることに驚きました。

米国でも日本と同じように医療の地域格差はあって、それを埋める存在が家庭医であること。家庭医は地域ニーズに応じて自分のスタイルや生き方を柔軟に変えられるというところにもすばらしさを感じました。

家庭医が一人の患者に主治医として診ていって、必要に応じて専門の先生のお力をお借りしながらも自分で診ていくというスタイルがよいなと思いました。



北海道江別市立病院

**【Q】** 週1回院外研修に行かれていますか。

**【中安】** 広島にあるコールメディカルクリニックというところで、在宅医療の研修を行っています。

在宅ならではの医療の考え方で、病院にはないその患者の生活にも目を向ける医療なので、研修していて充実感がありますよ。例えば、患者さんの体が不自由でも野球観戦に行きたいと希望すればスタッフが丸となって連れて行くために必要な準備を行い、医師、看護師、リハビリの方等みんなで見学に行ったりしています。在宅だと病院では見られない患者さんの顔が見ら



コールメディカルクリニック広島

れます。そこにも魅力を感じますね。

**【Q】** プログラムにエントリーして何か変わったことなどはありますか。

**【中安】** プログラムにエントリーした1年目の時には、専門医の先生からそのプログラムは何？とか、家庭医・総合診療医って何？我々専門医も家庭医的なことをやっているから家庭医・総合診療医って必要ないのでは？と言われていましたが、そういう状況に少し変化が起こり始め、家庭医・総合診療医がいることの重要性や必要性が徐々に浸透しつつあるように感じますね。

**【Q】** プログラムに応募してよかったと感じることは。

**【中安】** プログラムに興味を持ってくれる人が増えていることと、少しずつですが仲間が増えてきていることです。また、プログラムをみんなで支えようといった雰囲気や確実に出てきていると感じるので、安心感を持って山口の地域医療を楽しく頑張れることです。

**【Q】** 周防大島町での生活はいかがですか。

**【中安】** 海も穏やかで、住むにはとてもいいところだと思います。子どもたちと楽しく過ごしています。



大島大橋

**【Q】** 今後の抱負やこういう診療をしていきたいと思われることは。

**【中安】** 独居老人や、ご家族の方が遠くに離れていて気持ち的にも弱っている方たちが地域で幸せに過ごせるサポート体制を整えてみんながHAPPYな最後を迎えられる地域づくりに貢献していきたいと思っています。

**【Q】** プログラム1期生として、総合医・家庭医を目指す医師へメッセージをお願いします。

**【中安】** このプログラムはいつからスタートしてもいいというところにメリットがあると思います。例えば研修医明けにこのプログラムをとって、地域の現状を知った上で専門医を目指してもいいと思います。また、逆に専門医をと



周防大島町立東和病院

られた方が外来診療や地域医療などを再スタートするにあたってこのプログラムを選ぶというのもいいと思います。個人や地域のニーズに応じて柔軟に変化できるプログラムだと思っていますので興味のある方はぜひエントリーしてください。

## ◆ 地域医療セミナー2013夏 in 周防大島が開催されました！ ◆

「地域医療セミナー2013夏 in 周防大島」が平成25年8月22日から24日までの3日間、周防大島町を舞台に開催されました。

地域医療セミナーは、地域医療を体験し地域の生活環境を実感することで、医学生における地域医療マインドを高め、地域医療の分かる医療人の育成を目的としています。

地域医療セミナーを自治医科大学の学生と山口大学の学生が合同で行うようになって今年で4年目になり、学生間の交流の場としてもすっかり定着してきました。今年は新たな試みとして、高知県との学生交換プログラムを実施し、本県医学生2名（山大生、自治医大生）は高知県で、高知県医学生2名は山口県で実習に参加しました。

今回は、自治医科大学12名、山口大学10名、高知県医学生2名の総勢24名が、12のグループに分かれて、周防大島町内の様々な医療機関や介護保険施設等での実習に取り組みました。

2日目の夜には、指導医や大島郡医師会関係者、行政関係者等との意見交換会を行い、大いに親睦を深めました。

3日目の報告会は、ワークショップ形式により、周防大島町の地域医療の課題とその解決策を考えました。

3日間の研修を終えた学生達は、目を輝かせて「自分の目標を明確に見つけることができた」、「地域医療に必要なものが見えた」など、各自それぞれ発見がありとても充実した研修だったことがうかがえました。



(実習先にて)



(巡回診療)



(グループワーク)



(懇親会)



◆ 県内3ヶ所で「高校生のための医療現場体験セミナー」開催！ ◆ ◆

平成25年度「高校生のための医療現場体験セミナー」が、岩国市医療センター医師会病院、国立病院機構関門医療センター、山口県厚生農業協同組合連合会長門総合病院の3会場で開催され、合計で49名の高校生が参加しました。

セミナーの目的は、医師を目指す山口県内の高校生を対象として、実際の医療現場の見学と体験、医師との対話や交流を通じて「医師の仕事や医療を理解し、医師になる意欲を育む」ことにあります。

当日は、病院見学、医師による講話、医師や医学生との懇談、医師・医学生による指導を受けながら、採血・縫合（シミュレータ使用）、腹部超音波検査などの医療体験を行いました。日常ではなかなか体験することができない医療の現場や医師の仕事に触れて、参加した高校生からは、「医学部に進みたい気持ちが高まった」など、将来の目標が明確になった様子でした。

これを契機として、ぜひ山口県を支える医師に育てて欲しいと願っています。



(採血実習)



(縫合実習)



(心電図検査)



(記念撮影)

## Ⅲ 県からのお知らせ

### ◆「やまぐちドクターネット」を御覧ください！◆◆◆◆◆

山口県医師確保総合情報インターネットサイト『やまぐちドクターネット』では、県の医師確保対策をはじめ、地域医療に関するトピックスや県内医療機関の情報を掲載しています。

このサイト上で会員登録をさせていただいた方には、現場で活躍する女性医師や研修医の方々のエッセイ等を紹介するメールマガジン「やまぐちドクターネット通信」を隔月配信しています。

本誌のバックナンバーも掲載しておりますので、是非一度御覧ください。

⇒ <http://www.y-doctor.med.yamaguchi-u.ac.jp/>



「山口県地域医療の風だより」の継続発送を希望される方へ

### 継続発送申込書

山口県健康福祉部地域医療推進室 行 (FAX 083-933-2939)

この申込書に必要事項を記入して、山口県健康福祉部地域医療推進室あてに FAX (083-933-2939) をお願いします。

- ※ FAXの際は、この面をそのまま送信していただいて結構です。
- ※ Eメールでの申込みは、件名を「山口県地域医療の風便り継続発送希望（医師確保対策班）」とし、申込者の氏名・年齢・住所（送付先）・郵便番号を記載して、地域医療推進室のメールアドレスに送信してください。

メールアドレス : [a151001@pref.yamaguchi.lg.jp](mailto:a151001@pref.yamaguchi.lg.jp)

氏 名		( 歳)
住 所	(〒 — )	
(送付先)		



発行 山口県健康福祉部 地域医療推進室 医師確保対策班

〒753-8501 山口県山口市滝町1-1

TEL 083-933-2937 FAX 083-933-2939

E-mail [a151001@pref.yamaguchi.lg.jp](mailto:a151001@pref.yamaguchi.lg.jp)

URL <http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a151001/index/>